

光のある場所^{ところ}

コレクションにみる 近現代美術の現実感

From the Collection: Where There is Light



1. 内藤礼《恩寵》2009(1999-)年 ビーズ、テグス 神奈川県立近代美術館蔵 撮影：畠山直哉

2013年

2014年

12月14日[土]—3月23日[日]

神奈川県立近代美術館 鎌倉

The Museum of Modern Art, Kamakura

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel. 0467-22-5000

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

●休館日：月曜日(ただし12月23日、1月13日は開館)、12月29日(日)–1月3日(金)

●開館時間：午前9時30分—午後5時(入館は午後4時30分まで)

●観覧料：一般700円(600円)、20歳未満と学生550円(450円)

65歳以上350円、高校生100円

* ()内は20名以上の団体料金です。

* 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。その他の割引につきましてはお問合せください。

* ファミリー・コミュニケーションの日：毎月第1日曜日(今回は1月5日、2月2日、3月2日)は、

18歳未満のお子様連れのご家族は優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館



■問い合わせ先

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53

tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464

広報担当：長島、酒井 展覧会担当：三本松

美術作品がひとつの視覚的世界として立ち現れるとき、これを「目に見えるようにする」のは、実在する外光と、作品の内なる空間を満たす光——色彩と明暗によって構成されるイメージであるといえます。

西洋の遠近法と陰影法による写実表現を「真に迫る」技として驚嘆をもって学び入れた高橋由一、松岡壽らにはじまる明治期の日本近代洋画から、黒田清輝らが取り入れた外光派の柔らかな色彩、そして大正期の萬鉄五郎や岸田劉生が追及した鮮明な光。1930年代には、内田巖が静謐なリアリズムに時代の不安な空気を、阿部合成や三岸好太郎が具象表現にシュールレアリスムな感覚を帯びさせる一方で、谷中安規や藤牧義夫が木版画で「輝く闇」とも形容すべき幻想的な世界を描き出すなど、技法の成熟と時代の諸相を反映した多様な「リアル」のかたちが展開しました。

さらに、カンヴァス全体を、光をめぐるイメージの実験場とした戦後の抽象表現主義から、空間そのものを作品とする現代美術の内藤礼まで、「光の現れ」に焦点を当てて当館のコレクション約80点を紹介し、近現代美術にみられる多様な現実感のありかたを考えます。



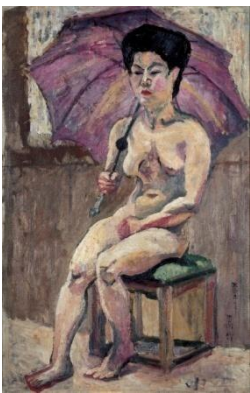
2.



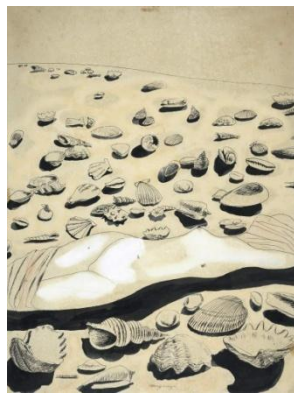
3.



4.



5.



6.



7.



8.

関連企画

●学芸員によるギャラリートーク

2014年2月1日(土)、3月8日(土)

各日 午後2時-2時30分

申込不要、無料(ただし本展の観覧券が必要です)

●ワークショップ「光でえがく場所：色と線でフィルムに直接描く映画制作」

2014年3月9日(日) 午後2時-5時

講師：石田尚志氏(美術作家)

会場：神奈川県立近代美術館 鎌倉

要申込、無料(詳細は当館ホームページをご覧ください)



9.



10.

画像キャプション (すべて神奈川県立近代美術館蔵)

2. 内田巖 《トランプ》 1934年 油彩、カンヴァス
3. 岸田劉生 《初夏の麦畑と石垣》 1920年 油彩、カンヴァス
4. 鳥海青児 《僕の家(飯倉の家)》 1953年 油彩、カンヴァス
5. 萬鉄五郎 《日傘の裸婦》 1913年 油彩、カンヴァス
6. 三岸好太郎 《海と射光》 1934年 水彩、紙
7. 谷中安規 《桜》(『少年画集』2) 1932年 木版、紙
8. 藤牧義夫 《つき》 1934年 木版、紙、彩色
9. 松本陽子 《思考回路 I》 2005年 油彩、カンヴァス
10. 伊庭靖子 《Untitled》 2009年 油彩、カンヴァス